名高同窓會報

発行所　名寄市徳田 204 番地１
北海道名寄高等学校同窓会事務局
TEL：01654-3-6842　FAX：01654-3-6841
発行人　会長　梅野　博（名高 16 期）

名高の今

北海道名寄高等学校長　今中　勇希



名寄高等学校同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に対しまして、深い御理解と御協力をいただいておりますこと、また、多方面にわたり温かい御支援を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

私は本校の 45 期生であり、母校に着任して３年目を迎えました。母校で勤務できる喜びを感じるとともに、校長として、これまで築かれてきた歴史と伝統を受け継いでいく責任の重さを実感しております。

近年の名寄高校は、時代に合わせて大きく変化しております。私が赴任した当時は、新旧の二つの制服を着た生徒がともに学校生活を送っていましたが、現在では全校生徒が新制服に身を包み、活気ある学校生活を送っています。

制服の刷新だけはありません。情報技術科の設置、普通科ハイレベルクラスの開設、実習棟「キタミライ棟」の完成、台湾の鳳新高級中學との姉妹校提携など、教育内容と施設の両面で新たな取組を進めてきました。こうした取組を一つ一つ積み重ね、令和８年３月には「新しい名寄高校」の一期生を無事に送り出すことができました。一期生の学年主任を務めた瀧川基幸教諭（47 期生・本校卒業生）は、「すべてのことが手探りだったが、新たな道を切り拓くことができた」と振り返っています。教職員にとっても、生徒とともに試行錯誤を重ねた３年間でしたが、生徒はこうした変化を前向きに受け止め、校訓「集中之行」のもと、新たな教育目標「じぶん・みんな・つくる」の実現に向けて努力を重ねてまいりました。卒業時の生徒の振り返りアンケートでも高い評価を得ることができ、新体制が順調なスタートを切れたことに、校長として安堵しております。進路につきましても、国公立大学をはじめとする大学・専門学校への進学から、公務員・地元企業への就職まで、一人一人が自分の希望する道を切り拓いています。

また、新設された情報技術科の活躍も目覚ましいものがあります。令和７年度には文部科学省の「DX ハイスクール」に採択され、ドローンを活用した学習を授業に取り入れました。名寄自動車学校と連携協定を結び、専門的な知識や技術を持つ講師の方々から実践的な指導を受けています。今年５月に兵庫県で開催された競技会「ドロカツ」では、プログラミング部門で第１位、総合第２位という大きな成果を収め、「ドローンといえば名高」と、その名を全国に知っていただく機会となりました。

国際理解教育にも力を入れています。コロナ禍によって一時途絶えていた海外との交流も再び活発になり、今年度は台湾、カナダ、イスラエルの高校生や大学生を受け入れるとともに、ドイツやカンボジア、台湾などへ生徒を派遣しています。８月には IFU 国際大学連合と連携協定を結び、海外進学への道も広げていきます。名寄で学びながら世界に目を向け、世界へ羽ばたく生徒を育てていきたいと考えています。

さらに、昨年度は卒業生や地域の皆様を中心とした「名高応援団」を発足しました。現在、120 名を超える皆様に団員として御登録いただき、「名高新聞」を通じて学校の様子をお伝えしながら、物心両面から温かい御支援をいただいております。同窓生の皆様にも、ぜひ「名高応援団」に御加入いただき、後輩たちの成長を支えていただければ幸いです（詳しくは本校 HP をご覧ください）。

これまでの歴史と伝統を大切にしながら、新しい歩みを続ける名寄高校。これからも地域に愛され、地域の未来を担う人材を育てる学校であり続けたいと思います。同窓会の皆様には、これからも母校の歩みを温かく見守っていただき、変わらぬ御支援と御指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

部活動報告

「ドロカツ」全国大会で活躍！

令和８年５月１０日（日）、兵庫県三田市で開催された「第３回ドロカツ全国大会」に本校情報技術科の２年生４名が出場し、「プログラミングスキル部門１位」ならびに「総合２位」という素晴らしい快挙を成し遂げました。



表彰された４名．左から，村上 虎太郎 君，松本 謙臣 君，湯川 颯太 君，佐藤 聖大 君

■ 「ドロカツ大会」とは

教育用小型ドローン（Robolink 社製『CoDrone』：重量 54.8g）を使用し、「プログラミングスキル」と「操縦スキル」の両方を競う (注) STEM 競技大会です。競技には、円ゲートの通過やドローンの風圧（ダウンウォッシュ）を利用したボール移動、アシスタントの誘導による目視外着陸など多様な課題が設定されています。

■ 恵まれた環境が育んだ「名高ドロカツ団」

本校は令和７年度、名寄自動車学校との提携により専門インストラクターから高度な技術を学ぶ機会を得ました。さらに、同窓会館「白揚館」に大会コースを常設し、日常的に練習できる環境を整えたことは、全国的にも類を見ない大きな強みとなっています。

令和７年１２月の東日本大会（予選）では、当時３年生２名を含む６名が出場し、「無名チーム・名寄高校（名高ドロカツ団）の衝撃的優勝」と話題になりました。その後も弛まぬ練習とプログラムの細かな調整を重ね、今回の全国大会での輝かしい結果へとつながっています。

特にプログラミング部門では、他校が会場環境（照明、空間の広がり、空気の流れ、電波干渉など）に適応できず次々と墜落するなか、本校だけが着実に課題をクリアし続け、圧倒的な技術力を示しました。

また、当時３年生だった２名は今春卒業後、社会人として多忙な日々を送りながらも「名寄高校 B チーム」として全国大会に挑み、「操縦スキル部門２位」「総合３位」という見事な成績を収めました。先輩たちの熱量が後輩へ受け継がれていくこの連続性も、「名高ドロカツ団」を育む豊かな土壌の一つと言えるでしょう。



ドローンが円ゲートを通過する様子

■ 新たな挑戦と国家資格への広がり

現在、情報技術科では以下のような高度なプロジェクトに挑んでいます。

・**高度な制御**：センサー値（ジャイロ、気圧、相対位置等）を解析・活用した制御プログラムの構築

・**実務的活用**：農業・林業・建設業等で需要が高まる屋外空撮（オルソ画像）実習

・**エンターテインメント**：複数機を同時制御する「名高ドローンショー」の実現

こうした取り組みが結実し、国家資格である「二等無人航空機操縦士」に挑戦・合格する生徒も出てきています。今後は情報技術科だけでなく普通科の生徒へも関心が広がることを期待しています。

■ 世界大会を見据えて

大会運営団体は将来的な世界大会への展開も視野に入れているとのことです。近い将来、「名高ドロカツ団、世界へ羽ばたく！」というビッグニュースを同窓生の皆様にお届けできるよう、更なる高みを目指してまいります。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

（注）「STEM（ステム）」とは、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）の四つの頭文字を取ったもので、理数系の教科・科目を単に学ぶだけではなく、これらの分野を横断的に探究できる力を育むための教育方法です。1990 年代のアメリカが起源とされています。



同期会報告

43期・同期会を実施

43 期(平成３年３月卒)の同期会が 10 月３日(土)にグランドホテル藤花にて開催されました。参加者は同期生 49 名で、さらにご存命の担任の先生３名にもご出席いただき、盛会のうちに終了しました。

会に先立ち、現在、名寄高校に勤務している私、佐川が校舎案内を行いました。参加者は 22 名で、音楽室、美術室、HR 教室、体育館、キタミライ棟を巡りました。皆さん、当時と比べて現在の制服が大きく変わっていることに驚かれていた様子でした。





久しぶりに顔を合わせた仲間との時間は、学生時代の思い出を改めて鮮やかにしてくれました。これからも 43 期の絆が変わらず続いていくことを願っています。

今回の会の開催にあたりご尽力くださった発起人の皆様、遠方よりお越しくださった恩師の先生方、そして参加してくださった 43 期の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和７年度・総会実施報告

令和 7 年度名寄高校同窓会総会・懇親会が去る令和 7 年 10 月 10 日（金）、グランドホテル藤花にて約 100 名の参加をいただき実施しました。総会では、令和 6 年度同窓会会計及び事業積立金決算報告、監査報告、令和 6 年度会務報告及び令和 7 年度年間行事計画、同窓会会計予算審議について審議をし、すべての議案が承認されました。

当番幹事の名高 38・48・58 期の皆さまをはじめ関係された方々に厚くお礼申し上げます。

同窓会報６０号の原稿募集

令和 9 年 10 月発行予定の同窓会報 60 号の原稿と広告を募集しています。会報の掲載内容は、同窓会各員や各支部地区役員、同窓生個人、旧職員の原稿や支部だより、同期会だよりなどがあります。寄稿先は事務局（名寄高校内）佐久間までご連絡ください。原稿は各自のパソコンで作られたものでも、手書きでも構いません。写真は使用後に返却いたします。

今後も、同期だよりや同窓生の活躍状況などを積極的に掲載させていただこうと考えておりますので、ご協力よろしくお願いします。

■令和8年3月　卒業生　進路別合格者数（延べ数）■

北海道名寄高等学校　進路指導部

区分	学校名	合格者数 男	女	過年度	合計
国公立大学	北海道教育大学札幌校		1		1
	北海道教育大学岩見沢校	1	1		2
	北海道教育大学旭川校	3			3
	室蘭工業大学	2	2		4
	小樽商科大学	1	1		2
	北見工業大学	2	1		3
	公立千歳科学技術大学	1			1
	名寄市立大学	2	5		7
	旭川市立大学	2	2	1	5
	筑波技術大学	1			1
	会津大学		1		1
	高知工科大学	1			1
	名桜大学		1		1
	小　計	16	15	1	32
道内私立大学	札幌大学	1	2		3
	札幌大谷大学	2			2
	札幌学院大学	3	1		4
	札幌国際大学	2			2
	星槎道都大学	1	1		2
	藤女子大学		1		1
	北翔大学	2	1		3
	北星学園大学		1		1
	北海学園大学	7	2		9
	北海商科大学		1		1
	北海道医療大学		3		3
	北海道科学大学	4	2		6
	北海道情報大学	4	1		5
	小　計	26	16	0	42
道外私立大学	神奈川大学		1		1
	桜美林大学	1	2		3
	東京工科大学	1			1
	平成帝京大学		2		2
	城西国際大学	1			1
	千葉工業大学	1			1
	大東文化大学		1		1
	東海大学	1	1		2
	城西大学		1		1
	芝浦工業大学			1	1
	小　計	5	8	1	14
国公立短大	旭川市立短期大学		3		3
	小　計		3		3
私立短大	小　計				

区分	学校名	合格者数 男	女	過年度	合計
看護系学校	旭川厚生看護専門学校		1		1
	深川市立高等看護専門学校		1		1
	滝川市立高等看護専門学校		1		1
	札幌看護医療専門学校		1		1
	小　計		4		4
専修学校	札幌ほいく専門学校		1		1
	北海道理容美容専門学校		1		1
	大原法律公務員専門学校	1			1
	札幌看護医療専門学校		3		3
	専門学校札幌デザイナー学院	1	2		3
	北海道エコ・動物自然専門学校	1			1
	札幌リハビリテーション専門学校		1		1
	札幌ベルエポック製菓調理専門学校		1		1
	札幌どうぶつ専門学校		1		1
	北海道文化服装専門学校		1		1
	札幌観光ブライダル製菓専門学校		1		1
	札幌ミュージック＆エンターテインメント専門学校	1	1		2
	専門学校北海道自動車整備大学校	2			2
	札幌ビューティーアート専門学校		1		1
	札幌ブライダル＆ホテル観光専門学校		2		2
	札幌ミュージック＆ダンス・放送専門学校		1		1
	北海道歯科衛生士専門学校		1		1
	札幌調理製菓専門学校	2			2
	掘削技術専門学校	1			1
	北海道美容専門学校		1		1
	札幌デジタル＆どうぶつ・医療・観光専門学校		1		1
	函館医師会看護・リハビリテーション学院		1		1
	北海道情報専門学校		1		1
	旭川情報ビジネス専門学校	2			2
	北海道スポーツ専門学校	1			1
	日本工学院北海道専門学校	1			1
	小　計	13	22		35
大学校等	北海道職業能力開発大学校	1			1
	小　計	1			1
公務員・民間就職	国家公務員Ⅲ種		1		1
	税務署職員		1		1
	北海道職員	2	1		3
	名寄市職員	3	1		4
	士別市職員	2	1		3
	美深町職員		2		2
	下川町職員		1		1
	鷹栖町職員	1			1
	上川町職員	1			1
	上川北部消防事務組合消防本部	1			1
	自衛隊	2			2
	北海道電力	1			1
	ミツミ電機株式会社千歳営業所	1			1
	王子製紙苫小牧工場	1			1
	住友電気工業横浜製作所	1			1
	NTT－ME	2			2
	日本郵便株式会社		1		1
	株式会社西條		1		1
	株式会社セノン	1			1
	公園通り動物病院		1		1
	島田電気商会		1		1
	小　計	19	12		31

※令和8年3月31日（火）判明分

題字：宗形 梨菜（72 期）